

「表現」の探究に尽くす



卒業生

同志社女子大学
学芸学部音楽学科1年
平岡 舞子 さん

中高と北陸学院で学ぶ
北陸学院高等学校2023年度卒業
幼少期から高校までバイオリン
を習う。中学は箏曲部、高校は
合唱部の楽器担当で、在校時に
さまざまな音楽に触れてきた。

豊かな音を知る

「特別な経験ができそう」と思い、中高とミッションを選びました。実際、ツリー点灯式やクリスマス礼拝など、この学校ならではの行事でバイオリンの演奏をさせてもらいました。高校合唱部では楽器演奏のサポートをしていて、合唱曲だけではなく、ジャズセッションを楽しむことも。日頃の礼拝では、パイプオルガンの音色に合わせて讃美歌に親しみました。

習い事では一人で演奏することが多く、自分の表現に葛藤する日々を経験。だからこそ、学校行事や部活動で「隣の人と創る音」を通して自分の音楽だけじゃないことを知ることが、逆に自分について考える機会につながっていました。

自分や他者の受容

ミッションの先生は、個性豊かで面白い方が多いです。質問しやすい環境なので、進路を決める際、「自分が何を表現したいのか」という問いにぶつかった時も、お世話になった先生方に「表現とは何か」を聞いてまわりました。親身に意見を聞いて、私の言葉を引き出そうとしてくださる先生方の姿勢が心の支えでした。他者の考えを完全に理解することは難しくても、「相手が何を伝えようとしているのか」を理解しようとする過程が大切だと感じました。

表現の幅を広げていく

大学では芸術全般を学びながら、音楽と向き合っています。私にとって新たな分野になる電子音楽や映像制作などにも興味があり、多方面から知識を得て、音を扱った作品制作につなげたいと考えています。

今も変わらず、「何を表現するか」が私の主題です。中高時代によく聞いた使命という言葉は、「個性を受け入れた上で、どう生きるか」ということを考えさせてくれました。他者と言葉や音で交わり、理解し合う過程を大切にしながら、「生きた表現」を探っていきたいです。



ミッション祭のステージで、合唱部と一緒に音楽を創りました！



聖歌隊の歌声に合わせて、バイオリンを弾きました。